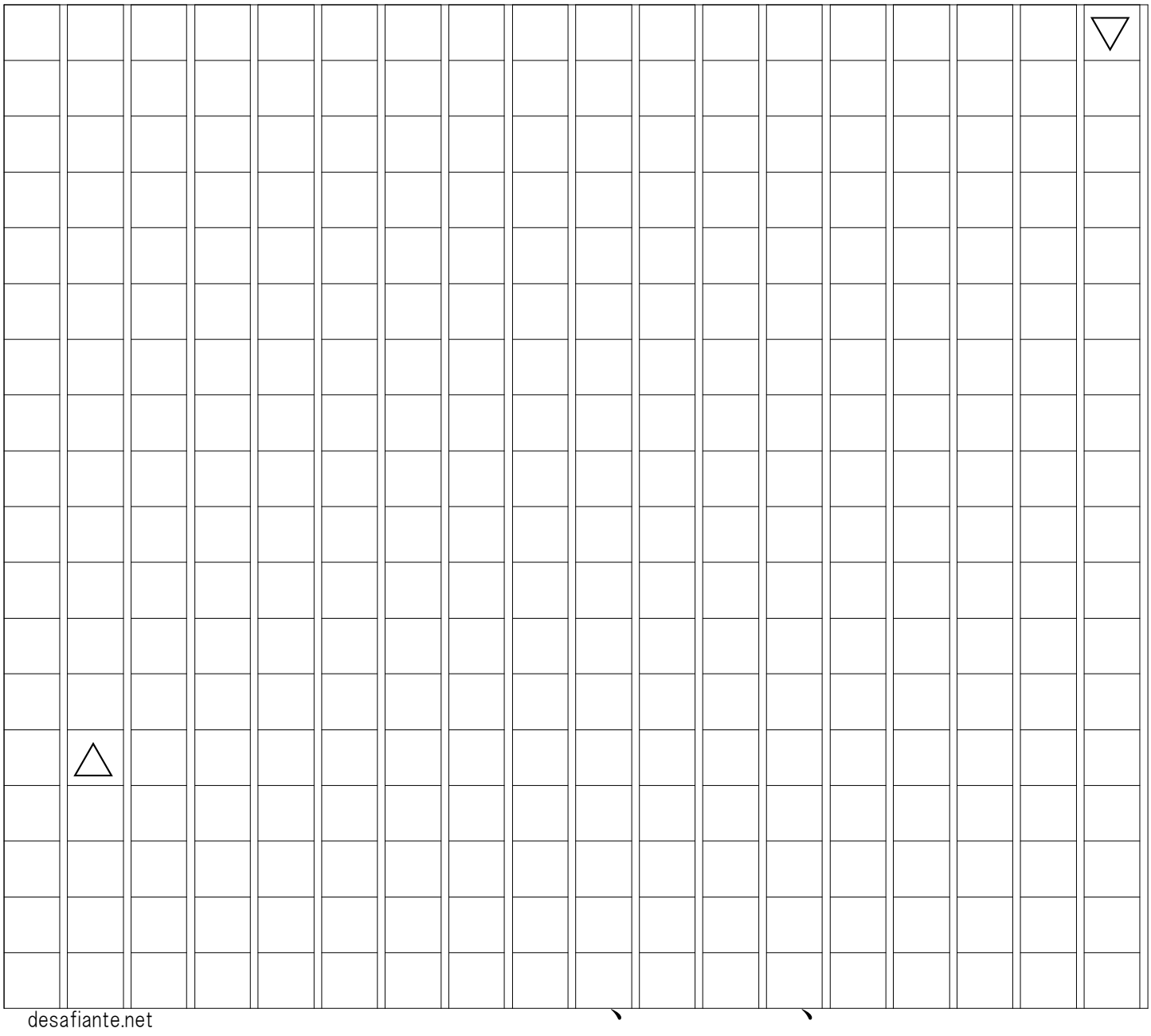
視写「天地の文」

名前（　　）

福澤諭吉

天地日月。東西南北。きたを背に、南に向かひて右と左に指させば、ひだりは東、みぎはにし。日輪、朝は東より、次第にのぼり、暮れはまたにしに没して、夜くらし。一昼一夜変わりなく、界を分けし、午前午後、前後あわせて二十四時、時をあつめて日を計へ、日数つもりて、三十の数に満つれば、一か月、大と小とにかかはらず、あらまし分けし、四週日、一週日の名目は日月火水木金土、一七日に一新し、一年五十二週日、第一月の一日は年立ち回るときなれど、春のはじめはなお遅く、初めて来る第三月、春夏秋冬、三月づつ、合はせて三百六十日、一年一年又一年、百年三万六千日、人生わづか五十年、稚きときに怠たらば、老いて悔ゆるも甲斐なかるべし。



desafiante.net